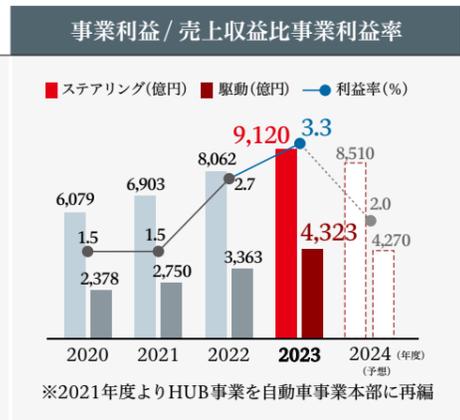


事業別ハイライト



p.31



市場環境

自動車業界は“環境対応車普及”や“国内労働人口減少”が加速中であり、BEV・HEV・クリーンエネルギー車等のニーズに対しソリューション提案が望まれます。またソフトウェア分野の人財不足が顕著な一方、制御・ソフトウェア拡充の為の人財が必要な為、事業体制を強化し付加価値ある事業運営を推進します。

No.1 & Only One

EPS は世界で初めて開発・生産した1988 年以来世界シェア

No.1

世界シェア 26.5%

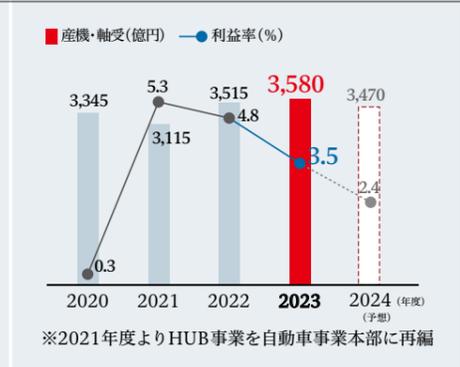
事業の強み・課題

自動車事業は、ステアリング、ドライブラインの主力製品を持っており、自動車の基本機能である「走る」と「曲がる」の進化に貢献できることを強みとしています。幅広いラインアップを持ち、将来に向けてコア技術を強化・融合した競争力の高い次世代製品を投入することで、高付加価値化を進めます。

今後は2030年に向けて、更なる社会発展の為に様々なモビリティ領域に対して、システムサプライヤーとしての価値提供に向けた取組みを開始し、ソリューションプロバイダーを目指してまいります。



p.32



CN に代表される環境維持・改善の要求から拡大する自動車のEV 化の課題である航続距離延長に対し、小型・軽量、低損失トルクが要求される軸受は要素技術の深化により電費向上に貢献します。

産業機械では基盤産業の鉄鋼業界や成長著しいロボット・半導体業界など、過酷・特殊環境向けに信頼性の高い軸受をベースにソリューション提案を継続します。

重荷重・超高温の中でも、高速回転を実現する鉄鋼設備用軸受は

国内シェア **No.1**

国内シェア 55%

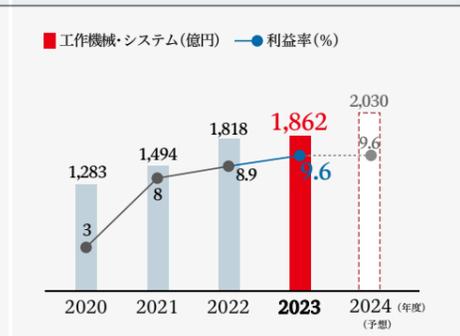
産機・軸受事業は、祖業である軸受の加工技術やトライボロジー技術の深化を通じて、1921年創業以来100年以上にわたり、自動車から産業機械まで広範囲のお客様に対し、お客様の製品の付加価値向上に貢献してきました。

今後は、軸受製品のみならずジェイテクトグループのコア技術・コンピタンスの強化、さらにはその技術を繋いだ更なるお客様の困りごと、課題解決に向けた提案活動を進めてまいります。

お客様に選び続けて頂けるように、将来的な社会課題に対して「競争」から「共創」への転換とソリューションプロバイダーへと成長して参ります。



p.33



世界でCN 実現に向けた動きが加速、自動車業界は電動化対応が急速に進みました。また、国内の労働力不足が顕著になってきています。高まる自動化/省人化ニーズに対し、既存製品の更なる進化と新領域へのチャレンジを推進します。

ジェイテクトグループの総力でタイムリーなソリューション提案に取り組みます。

1956年に国産初の研削盤を開発。円筒研削盤は世界シェア

No.1 (特殊研削盤を含む)

世界シェア 35%

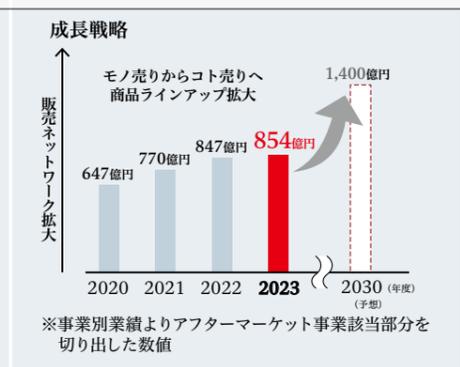
工作機械・システム事業は、自動車産業で培った高い生産性と、高い精度を長期間維持できる信頼性が強みです。安心して使い続けていただけるよう経験豊富なサービススペシャリストがお客様をサポートし続けています。

またグループで幅広い製品ラインアップ、及び、研削・砥石・搬送・油圧などの要素技術を持ち、様々な産業界のモノづくりに貢献しています。

今後は、グループコンピタンスを融合したソリューション提案で、お客様の更なる生産性・付加価値向上に貢献し、「JTEKT でよかった!」と言って頂けるように取り組みます。



p.34



大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会に代わる循環型社会の形成が推進されており、補修市場への期待がますます高まっています。多様化するお客様のニーズにお応えできる商品ラインアップの拡充を進め、グループ会社や販売代理店も一体となって、お客様の声を直接聞き、求められる製品・サービスを提供していきます。

世界各地の販売ネットワークと多様な商品ラインアップを活かし、補修市場でお客様になくはない存在を目指すとともに、No.1&Only One 技術を活かし、新たな価値を提供していきます。

グループの持つ多種多様なシーズを提供できる強みを活かし、補修市場において、お客様のプロダクトライフサイクルを支えるソリューションパートナーとなることを目指します。また、循環型社会のニーズにお客様視点で応えるために、お客様が買いやすく交換しやすい商品の品揃えと、お客様の手の届きやすい販売サービス網を強化していきます。

また、2030年に向けて、新たなマーケット・売り方を創造し、循環型社会において更なるニーズにお応えできるビジネスモデルを展開していきます。

自動車事業本部



クルマの基本機能である「曲がる」を支えるステアリング・システム、「走る」を支えるドライブライン製品、その他重要機能製品を開発・提供しています。「曲がる」「走る」のトップサプライヤーとして、新たなモビリティ領域での更なる“快適なクルマ”の実現の為に、車両との共創開発による「曲がる・走るを軸とした車両運動性能」に拘り UX 価値を提供していきます。



取締役経営役員
自動車事業本部長兼研究開発本部長
松本 巧

産機・軸受事業本部



軸受は自動車用から各種産業機械用まで、あらゆる産業の回転部分に使用されており、持続可能な社会に向けた CN・CE 実現のために見えないところで社会を支えています。自動車分野では、電動化に向けた小型・軽量化や高速化などのニーズへの対応、産業機械分野ではロボット・半導体など多様な使用環境で顧客のライフサイクルコスト低減に対して新たな商品・サービスを提供しています。



経営役員
産機・軸受事業本部長
三浦 義久

前中計の振り返り

2021 年度を起点とした第一期中期経営計画で、事業売上は新型コロナウイルスや半導体不足による影響はあったものの年々増収、利益についても損益分岐点売上比率を KPI に置き足元の改善を進めた結果、年輪成長を実現しました。One JTEKT で事業・グループ会社間の連携を強化しており、一方でトヨタグループのドライブラインホームとしても競争力向上に貢献、これらにより当社収益面で筋肉質な体質へ転換することができたと考えています。

特に 2023 年度は中長期目線でお客様のニーズに応える為に、「軽量・コンパクト・良質廉価」をコンセプトにした次世代 C-EPS® や RP-EPS® の導入等、様々な取組みを進め、収益向上に貢献してまいりました。

ただし、掲げた目標に対して、収益面においては未達の状態にある為、将来を見据えた戦略が重要となります。更なる収益向上に向け、付加価値を高めた製品の導入・拡販が必要と考えています。

新中計を踏まえた戦略

第二期中期経営計画では、設計・生技・製造技術連携させた開発により、コア技術を強化及び融合した次世代の高付加価値製品を投入し、収益向上に貢献します。そのコア技術をベースとした J-EPICS® (ステアパイワイヤ) をデファクト化する為の開発に注力し、Pairdriver® も自動運転に向けたベース技術として進化させてまいります。次世代製品で得た利益と DX や AI を活用して捻出した開発余力を原資とし、快適な運転環境や市場変化に追従できる商品 / 価値の提供に繋がります。

2030 年に向けては、様々なニーズに合った提案が出来るソリューションプロバイダーを目指した変革を始動しています。SDV**等の新たなモビリティ領域において、ステアリング、ドライブラインの枠組みを無くし、ハンドルからハブまで繋がった一連のシステムサプライヤーとして、お客様・グループ会社等との共創活動を進めてまいります。

** Software Defined Vehicle : ソフトウェアによって自動車の機能がアップデートされることを前提に設計・開発された車両

前中計の振り返り

第一期中期計画では「体質強化の3年」として、JTEKT ブランドで Reborn を掲げ、収益体質の強化に取り組んでまいりました。特に外部環境変化に耐えうる安定した事業基盤の確立に向け、グループ会社を含めた拠点統廃合の実行、国内外の構造改革の実施により事業体質を改善しました。

また、中長期的な視点での取組みとして自動車用では BEV 用軸受の競争力強化と産業機械分野の成長領域へのシフトに着手しました。特に JTEKT Ultra Compact シリーズは、グループシーズを活用し、自動車・産業機械の様々な分野に貢献する高付加価値製品として開発。加えて産業機械分野では多様化する使用環境への対応として、半導体製造装置用やロボット減速機用軸受の開発により様々なお客様のニーズに応えるために取り組んできました。

新中計を踏まえた戦略

新中計においては、第一期で実施してきた体質強化の取組みに加えて、より一層の構造改革を進め収益向上を図るとともに、原価低減と生産技術革新の実行により成長領域への拡大を図ることで年輪成長を目指していきます。

2030 年に向けては、自動車領域における競争力強化として、デジタル活用により開発リードタイムを短縮、またパートナー企業等の外部リソース活用により余力を創出します。

生み出した余力でコア技術を進化させ、自動車、産業機械向けの提案を加速させていきます。さらに軸受技術と他事業・グループ会社のコンピタンスをつなぎ新たな商品・サービスの進化を提供できる人財の育成を図ります。

従来のモノ売りビジネスから脱却し、お客様の新たな価値創造に貢献するソリューションプロバイダーを実現します。

No.1 & Only One に向けた取組み

<p>運転支援・自動運転機能と人との共存 快適な運転環境・低速時の取り回し性向上</p>	<p>自動車の運転支援・自動運転実現のため、制御ソフトウェア開発に取り組んでいます。なかでも当社開発の Pairdriver® は、「人とシステムとの直感的なコミュニケーション」による運転アシストを実現し、安全で快適な自動運転に貢献します。ステアリング操作を電気信号で行うシステムの総称「J-EPICS®」では、自動運転時にハンドルを格納して車室空間を確保し、広い運転空間を実現します。手動運転では、低速時にハンドルの切り返しが減ることで、車両取り回し性向上にも貢献します。</p>
<p>高効率な製品開発</p>	<p>システムサプライヤーとして多品種で高効率な製品を開発し、クリーンエネルギー車の電費向上に貢献できるよう取り組みます。その中でも水素は次世代エネルギーとして注目されており、カーボンニュートラルを見据えて高効率な高圧水素減圧弁による水素燃料車の航続距離向上にも貢献します。</p>



自動操舵制御システム



J-EPICS®



高圧水素タンク用バルブ

FCEV 用減圧弁

No.1 & Only One に向けた取組み

<p>磁気軸受型ターボ分子ポンプ用 タッチダウン軸受を開発 (MV コーティング)</p>	<p>半導体製造装置など、高真空用途で広く使用される磁気軸受型ターボ分子ポンプ用軸受従来品比 4 倍以上の耐久性を有する MV コーティング品を提案し信頼性向上に貢献</p>
<p>耐水素環境用軸受「EXSEV-H2®」の量産を開始</p>	<p>水素環境での耐久性、耐食性を大きく向上させた「EXSEV-H2®」の量産を開始 本製品は燃料電池の水素循環ポンプなどに使用され、カーボンニュートラルの実現に貢献</p>

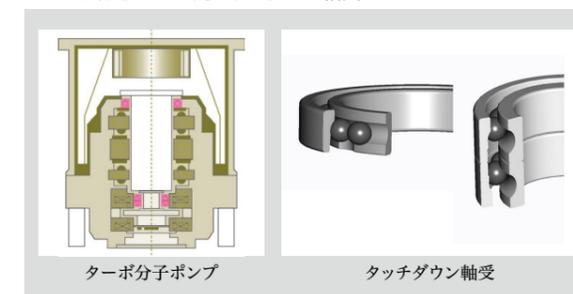
● 耐水素環境用軸受



耐水素環境用軸受「EXSEV-H2®」

水素環境中軸受寿命試験機 (JTEKT オリジナル)

● ターボ分子ポンプ用タッチダウン軸受



ターボ分子ポンプ

タッチダウン軸受

工作機械・システム事業本部



自動車産業で培った信頼性の高い設備とお客様の期待を上回るアフターサービスで、お客様のモノづくりのライフサイクル全てを通じてサポートしています。既存商品進化と新領域のチャレンジ、デジタル・AI技術、グループコンピタンスを融合させたソリューション提案でお客様の付加価値向上に貢献し、事業と社会の発展を支えていきます。



経営役員
工作機械・システム事業本部長

佐々木 慎吾

アフターマーケット事業本部



我々の「存在意義」

- ・お客様の価値創造活動が持続的に進めるように
- ・多種多様な商品・サービス・うれしさを提供し、
- ・社会課題・お客様の困りごとを解決、また、困りごとの未然防止に貢献

地球の未来に想いを馳せ、持続可能な社会の実現を支えるソリューションパートナーへ



経営役員
アフターマーケット事業本部長

石岡 賢一

前中計の振り返り

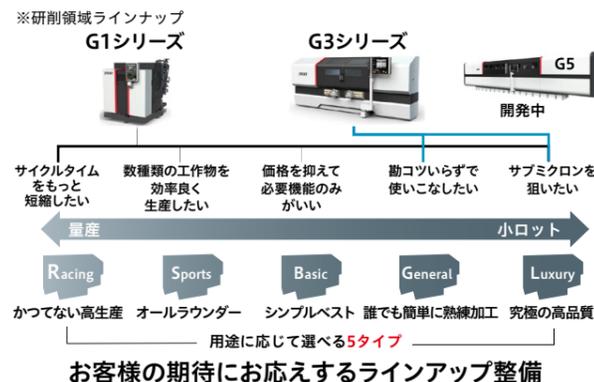
世界情勢が不安定さを増すなか、市況はコロナの影響からようやく脱却しました。設備投資需要は、半導体向けや自動車業界向けで急回復・堅調に推移した後、世界的なインフレと金融引締政策から投資意欲が落ち込みました。EV向けやCN対応、自動化/省人化ニーズはあるものの、中国経済のスローダウン影響もあり市況は調整局面に入りました。

このような環境下で、お客様のEV対応による需要変化に幅広く対応するため、強みの研削領域で製品ラインアップを拡充しました。また、CN対応機能搭載のほか、制御技術を使ったIoEソリューション提案などにグループで取り組みました。さらに、電池製造設備の開発・生産開始し、新領域にもチャレンジしています。自動化/省人化ニーズに対しては、デジタル・AIを使った製品・サービスの開発、今後必要とされる加工技術や工法開発を推進しました。

事業環境は、材料・輸送・エネルギー費用が急騰し厳しさが増しました。生産性向上と更なる原価低減を実施した結果、業績は前中計以前と比べ円安効果もあり増収増益となりました。

No.1 & Only One に向けた取組み

研削領域での大型モデル整備	強みの研削領域で大型モデル整備を推進してまいります。お客様が必要となるCN機能や自動化などのオプション整備し、グループ総合力でソリューション提案ができるよう取り組んでまいります。
シンプル・スリム・コンパクトな設備で、生産性向上へ	新領域としてチャレンジしている電池製造設備では、シンプル・スリム・コンパクトな設備仕様で、設備導入と維持コストの負担を減らし、設備性能以外の面でも価値を提供してまいります。

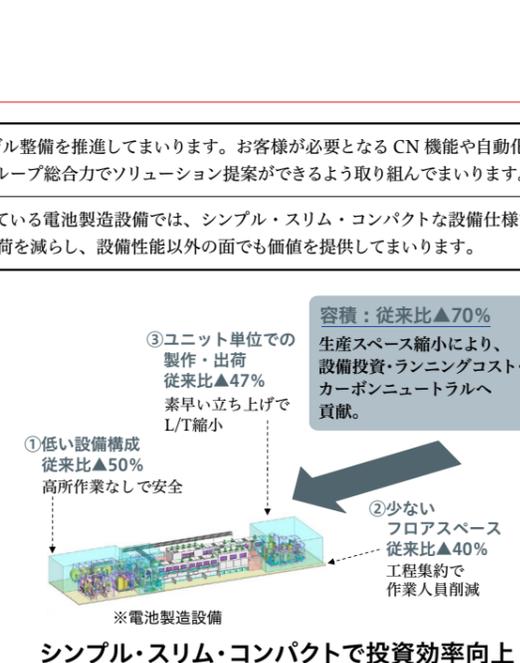


新中計を踏まえた戦略

グループコンピタンスを活用したソリューション提供により、モノづくりのさらなる生産性・付加価値向上に貢献し、お客様にいつまでも選び続けてもらえる事業を目指していきます。

第二期中期経営計画では競争力強化に向けて、研削盤の大型モデルの整備や、電池の進化を支える設備づくりを進めていきます。また、ジェイテクトグループ全体でデジタルを活用した生産プロセスを定着させ、効率的・高品質の生産体制を構築していきます。そして、お客様との対話を通じ、顕在・潜在ニーズに応えるべく、グループ全体で新たなソリューションを提供していきます。

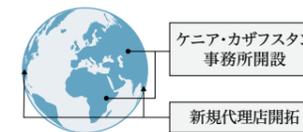
2030年に向けては、AI・予兆管理を導入し、お客様の困り事に素早く対応するための新しいアフターサービスづくりを推進します。電池設備領域も含め、トヨタグループとの連携を強化し、設備づくりから生産ラインのコーディネートを担う、トータルラインビルダーを目指します。



前中計の振り返り

お客様へよりお届けしやすい販売ネットワーク構築

新興市場への拠点新設をはじめ、お客様への販売サポート体制を拡大



お客様の補修ニーズにお応えする品揃え強化

自動車部品の補修市場投入を開始、ラインアップ拡大



お客様の必要な情報をタイムリーに提供

部品検索システム「パーツナビ3」、SNSによるブランドマーケティング開始により、お客様にタイムリーに情報をお届けできる体制を整備

新中計を踏まえた戦略

グループが持つ多種多様なシーズを補修市場でも活用し、循環型社会の実現に貢献。お客様のプロダクトライフサイクルを支えるソリューションパートナーを目指します。

自動車分野では、自動車部品リビルド、EVをはじめとする新たなモビリティへの補修ニーズに対応していきます。

産業分野では、パートナーシップによる品揃えの充足。社会分野では、水位計やグループ製品を活用し、気候変動など様々な社会課題の解決に貢献していきます。



No.1 & Only One に向けた取組み

新たなお客様ニーズへ ～ロードバイク用 ONI BEARING®	当社のNo.1 & Only One 技術でお客様の新たなニーズにお応えするために、ロードバイク用セラミック軸受 ONI BEARING® を開発。ホイール用ベアリングに加え、ボトムブラケット用ベアリングも新たにリリース。2024年からは、欧州トップチーム Team Visma/Lease a Bike にも採用されました。ツールドフランスをはじめ、世界の舞台でNo.1の走りを支えるとともに、世界中のお客様にグントツの走りを提供してまいります。
水位計 ～防災へのサポート	省電力・高精度な水位計を提案し、近年発生する河川の氾濫・都市部の内水氾濫からみなさまの安全な生活をサポートしていきます。

